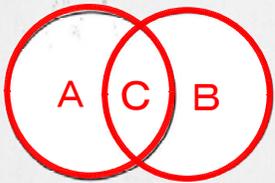


思考ツール①

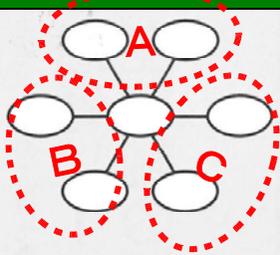
ベン図



異なる立場からの情報を、ベン図を用いて整理することで、共通点や相違点を明らかにすることができる。また、共通の要因を含む情報や課題解決の方法などを見いだすことができる。整理する視点を設けて情報を振り分け「比較・分類する」ことで、異なる立場の情報から「共通点を見いだす」思考力を育成すると考えられる。

思考ツール②

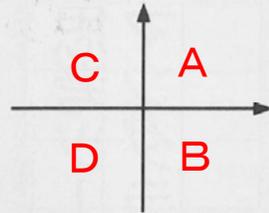
ウェビングマップ



考えを広げてみる時に使う。中心にトピックやテーマをおき、それに関連するものを連想して広げていく。イメージを広げたいときには、あまり制限をかけずに自由に連想したことをマップにしていくことが大切である。

思考ツール③

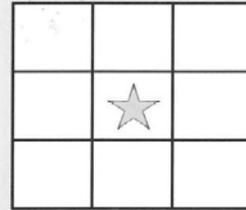
座標軸



二つの価値によって情報を分析する複眼的思考をするときに活用する思考ツール。それぞれの軸の位置によって価値についての傾向なども考えることになり、情報の偏りなどにも気付きやすい。

思考ツール④

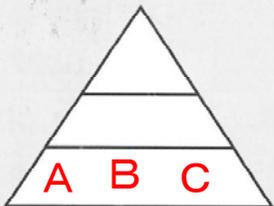
マンダラチャート



3×3のマスをかき、その中心に考えたいことを記入する。周辺のマスに、考えたいことから生まれた言葉を書き込んで埋めていく。これを繰り返して行うことで、アイデアを量産することができる。話し合いにおいて、アイデアを拡散させたいときに用いることで、柔軟な思考を生む。

思考ツール⑤

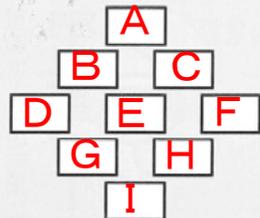
ピラミッドチャート



多様な情報や意見を一つにまとめたり、よりよい考えへと練り上げたりするときに、有効である。はじめに、個々の気付きやアイデア、考えの根拠となる情報を一番下の段に話し合いながら自由に書いていく。次にそこから、より重要な情報や意見を取捨選択しながら、つなげたり、補ったりして上の段へ書き込んでいく。さらに重要な内容を最上段へと絞り込んでいくことで、よりよいものへと高められていく。

思考ツール⑥

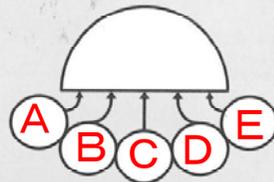
ダイヤモンドランキング



選んだ9種類のカードを並べながら、大切だと思うものを決定していくものである。カードを動かす活動を通し、その理由を考えたり、根拠を示したりしながら、思考を深めていくことが可能となる。

思考ツール⑦

クラゲチャート



主張の根拠や理由を探す場合や、出来事の原因や要因を探す場合に活用できる。頭の部分に主張や考えを記入し、それを理由づける事実や資料などを足の部分に書き込むようにする。足の部分と頭とのつながりを説明していく話し合いを設定し、事実と改善案のつながりを理解しやすくする。

思考ツール⑧

ミライシード ムーブノート・オクリンク



教員から提示される資料（ABC…）から入り、エキスパート活動等を行っていく活動と違い、児童生徒の気付き、発見など体験や実験などの活動を通して得たものから始まる学習を大切にしたい（児童生徒にとっては、能動的な学びからのスタートとなる）。それを整理する上で左に示しているような「思考ツール」を活用し、思考（ABC…）分けをして、「①エキスパート」→「②ジグソー」→「③クロストーク」を行っていく。

① エキスパート

児童生徒の気付きや発見などをもとに、思考（ABC…）のグループ分けをする。そのグループごとにエキスパート活動を行う。

② ジグソー

エキスパート活動で高めた（はっきりさせた）思考を互いに交流する活動（ABC…で1グループとする）を行う。

③ クロストーク

ジグソーでさらに活性化した思考をクロストークで練る活動を行う。

※ 思考ツールについては、問題解決的な学習の中ではじめは教員が授業で意図的に取り上げ、児童生徒に活用させていき、児童生徒がその価値を理解することが大切である。しかし、最終的には、児童生徒が自ら思考ツールを選択・決定できるようにし、自らの学びを自分でつくることが必要である。

※ 思考ツールについては、初等教育資料5月号から引用（2015年：No.926）